

17の金塊

前文：

クリスマスツリーの飾りに書いた者もいれば、ネックレスの一つ一つの粒に書いた者も。ヴィハル・ユディットの生徒の中には、キャンディーの包み紙やウズラの卵の殻に、ゼミの課題として課された俳句をしたためた者もいる。国内外のこのジャンルの専門家たちが欧州文化首都のペーチで一堂に会した。

本文：

「日本の詩かなにか」「金言・格言の類」「見当も付かない！」この日本の17世紀から存在する俳句という古い詩の形態について人々に聞いた場合のおおかたの反応はこのようなものだろう。もっとも驚かせた答えは、ある若者の発した「5・7・5でしょ」だった。俳句は、単に文学のジャンルというだけではなく(「私」中心ではない、自然現象を凝縮して表現する詩)、詩の形式をも意味する。3行で、各行5, 7, 5のシラブルで書かれ、例えばジョークの俳句は「川柳」と言われ、死を前にしての別れの詩は「辞世」(の句)という。

この週末、ペーチ大学のフニョル・ゲストハウスで俳句の国内外の専門家が一堂に会し、共同でワークショップや講演や俳句の朗読、俳句書きが行われる。この催し物のオーガナイザーで、ハンガリー・日本友好協会会長でもあるヴィハル・ユディット女史である。

「世界俳句フェスティバル」は必ずしも毎年開催されているわけではなく、コンファレンスの組織を引き受ける国があれば開催されます。国際俳句協会会長の夏石番矢氏とロンドンでの会議で知り合いになり、彼の作品を一つハンガリー語に翻訳しました。2010年、ペーチが欧州文化首都になると知ると、彼は、今年ハンガリーで世界俳句フェスティバルをやらないか、との提案があったのです。ありがたいお言葉と思いました。なぜなら、欧州では、これまでリトアニアでしか世界俳句フェスティバルは開催されていなかったからです。」ヴィハル女史は述べた。

フェスティバルでは一般向けのプログラムもある。会場では、イタリア人の俳人トニ・ピッチーニの俳画の展示と、カーロリ・ガーシュパール・カルヴァン派大学の学生たちの課題の展示がある。文学史・翻訳の専門家でありこの大学でも教えるヴィハル・ユディット女史の俳句ゼミでは、最後に、課題として、学生たちは俳句だけを書けばいいわけではなく、なにか俳句を「包む」ものを発明して、それとともに提出しなければならない。

(中略：とある俳句を書くようになったハンガリー人ザラン・ティボール氏のエピソード)

俳句は、侍も書いた。儀式的自殺、「切腹」をする前、侍たちは、何時間もかけて俳句をひねり出していた。いずれにしても、まさにこの非常に凝縮され、厳格な形式がますます多くのヨーロッパの詩人たちに自由を与えているのは面白い。ザラン氏は言う「俳人たちは、「金を洗う者」たちのようだ。つまり、ひとかたまりの金を得るために何ヘクトリットルという水が使われる。同じように、私たちも、ビックリするほどの量のヴァリエーションを使って、その中から作品、17粒の金塊を完成させるからだ。

(了)